みやたのなかま
Vol.1 2018.04.01 発行
創刊号

# 宮田 博文（みやた ひろふみ）

代表取締役

## 1

９７０年（昭和45年）、「人類の進歩と調和」をテーマに大阪万博が開幕。その同じ年に誕生した宮田博文は、懸命に仕事をする父の背中を見て育ち、物心がついた頃からとにかくトラックが大好きだった。名古屋や東京へ向かう便の出発時刻をこっそり調べては、まだ夜も明けないうちに両親に内緒で家を抜け出した。家の隣にある宮田運輸の車庫で、トラックを磨きながら乗務員を待つためだ。

「おっちゃん、連れて行ってや！」

「今日は学校の日やろ」。

それでも熱心さに根負けし、結局いつも乗せてくれたという。とにかくトラックに乗っていたい。トラックに乗って全国を駆け巡りたい。それが、子どもの頃からの宮田の夢だった。

### 波瀾含みのスタート

１９８９年（平成元年）、18歳で免許を取ると、高校の卒業式を待たずに宮田運輸へ入社する。しかしその年、取り引きの90パーセント以上を占めていた会社が、業績不振により吸収合併されてしまうという事態が起きた。仕事がなくなってしまうのではないかと社内が不安に揺れていた時、声を掛けてくれたのがミツカンである。

「大きなチャンスが来た。何としてもここで信用を勝ち取りたい」。

しかし、依頼は1台のみ。新規で尚且つ手積み手降ろしという厳しい内容。当時社長を務めていた父は、そこに若い宮田を行かせることを決断した。

「とにかく笑顔で、どんなにきつい仕事でもふたつ返事で受けろ」。

出発の時、父からそう声を掛けられた。何が何でも頑張ってやり遂げよう。その思いを胸に、意気揚々と現場へ向かったのだった。

### 仲間と共に働ける喜び

いざ飛び込んでみると、ミツカンの業務は想像以上に厳しかった。しかし、他の運送会社が断るようなことでも全部引き受け、３６５日間寝る間も惜しんで打ち込んだ。

「それでも、辛いなどとは全く思わなかった。トラックに乗って仕事をする夢が叶ったのがとにかく嬉しくて、毎日楽しかったんだ」。

体はくたくたになっても、心は常に喜びで溢れていたのだ。そんな宮田の働きぶりが評価され、ミツカンから2台目の依頼が入る。この時に誘ったのが、中学時代からの親友で現在の専務取締役である福田だ。仕事も順調に増えていき、3台目はその友人というように、依頼が入るたびに若い仲間が増えていくのが、また嬉しかった。「お客様の依頼をふたつ返事で受ける」信条のもと、会社としての売り上げも右肩上がりに伸びていったのである。

### 繁栄と絶望と

こうして貢献を重ねていった宮田は２０１２年、父の後を継いで４代目代表取締役社長に就任。創立45周年の年、幹部と共に長期目標を決め、勇んで新たなスタートを切ったのだ。それに向け、どんなに忙しくても仕事は何でも受けようという空気が、幹部をはじめとする社員達を包んでいた。しかし反面、「受け継いだ会社を潰してはいけない、社員を路頭に迷わせてはいけない、父を超えたい、お客様からクレームが来たらどうしよう」と、言い知れぬ恐れや不安もあった。

そんな矢先、従業員の事故が起きた。駆けつけた病院の霊安室で見た光景を、宮田は決して忘れることができない。その日から眠れない日々が続いた。

常日頃、世のため人のためになる仕事をしていこうと社員に言ってきた。何より、子どもの頃からトラックが大好きだった。それなのに、信じる仕事が、大好きなトラックが起こした悲しい出来事……。宮田の心は、悲しみと苦悩に覆い尽くされた。

### もう一度、前へ

そんな時に励まし、力づけてくれたのは、経営者仲間をはじめ、縁あって関わってきた人々だ。寄り添ってくれる人の優しさに、心から感謝した。

「そんな中、ある人から、好きなものをなくすのではなく、生かす方法があるのではないかと言われたのです」。

生きている者達は互いの命を生かし合える。そのためにトラックができることは何だろうか。そう考えた時、自分の中で世界が変わった。

ある時、近隣の工場に掲げてある安全標語が、そこに勤める社員の子ども達が書いたものだと聞いた。手書きの絵も付いている。宮田はこれに、ピンときた。トラック運転手は皆、家族の写真や手紙、絵などを大切に車内に飾っているものだ。

「それを多くの人の目に留まる場所に掲げれば、社会へのメッセージにもなるのではないか」。

こうして生まれたのが「こどもミュージアムプロジェクト」だ。運転する社員の人生と、再び前を向こうとする宮田の強い決意、安全への願い、そして未来への思い。それらすべてを乗せたラッピングトラックが走り出したのである。

（後編に続く）

**企業情報**

◆設 立 年：1967 年 4 月
◆年　　商：37 億円
（29年度 H29.4月~H30.3月 見込）
◆従業員数：280 人

※ 2017 年 12 月時点

# 国際CSV事業部を紹介します！

去年の４月に立ち上がった国際 CSV 事業部は、こどもミュージアムプロジェクトを中心に、事業を通して新しい価値を社会に広めていこうと活動を行っています。今回はそんな国際 CSV 事業部で働く後藤昌代さんに、事業部についてお話を伺いました！

（左から顧さん、胡さん）

## 事業部について

国際 CSV 事業部は、去年の４月に立ち上がった新しい部署です。メインの活動としては４年ほど前から我が社が行っている、こどもミュージアムプロジェクトの受注や営業があります。他にも、みらい研修やみらい合宿の実施、他の団体との連携、社会貢献活動などを行っています。どちらかと言うと慈善事業の色合いが強い CSR に比べ、CSV は経済としても事業を成り立たせていきたいという姿勢があります。社会的な課題を少しでも解決していこうという方向性はどちらも同じですが、**CSV は価値を理解していただいたお客様から、対価をいただいて行っています**。

新しい部署なので、去年の終わりまでは基盤固めに時間をかけていました。来た仕事をこなすといったような、受け身な部分もあったと思います。現在はだいぶ環境が整ってきたので、これから積極的に活動を進めていきたいです。いずれは「国際」と部署名にあるように、**海外に事業を広げることも視野に入れています**。

## スタッフ紹介

事業部では私の他に、２名のスタッフが働いています。どちらも中国出身の方で、いずれ事業を海外に広めるにあたり心強いメンバーです。１人は部署立ち上げ当初から入ってもらっていて、もう１人は去年の秋頃に入りました。２人とも元から CSV 事業部で働きたいという強い希望があり、社長面接を経て入社されました。**２人とも、思いを持って仕事をしてくれているので信頼しています**。慣れない土地、慣れない言葉での営業は難しいと思うのですが、やる気がとてもあり、前向きに仕事に取り組んでくれます。お互い家が遠いので飲みに行くなどは難しいのですが、仕事を通してしっかりと信頼関係が醸成されていると思います。

### 顧 麗娜（コ レイナ）さん

言いたいことをよく話すし、口調もちゃきちゃきしています。**活発な性格**が話し方によく現れていると思います。肝が座っていて、お客さんとも臆せずコミュニケーションを取ることができます。仕事はスピーディで、効率よくこなしてくれています。

### 胡 秉曄（コ ヘイヨウ）さん

日本に来て８年ぐらいだと思います。**とても優しい方です**。喋り方はもう一人のコさんとは対照的でおっとりとしています。細やかな方で、いろいろなことによく気が付きます。例えば私は方向音痴なのですが、一緒に仕事で出かけたあと、別々に帰ることになったときは道に迷わないか心配してくれました。

## 今後の目標

事業部が提供していきたい価値としては、**「人と人との繋がり」**というものがメインにあります。私自身、「人と人との繋がり」が今後とても大切になってくるだろうと考えておりまして……。最終的には、一つ一つの既存のプロジェクトを広げていったり繋げていったりということを目指しています。現在、こども食堂や独居老人の見守り活動など、社会に貢献しようとする取り組みをさまざまな団体が行っています。しかしこうした活動では、こども食堂ならこどもだけ、独居老人の見守り活動ならお年寄りだけという風に対象が限られています。それを、**団体同士を連携させることで、活動がもっと横に繋がっていくようにしていきたい**です。そのために現在、発達障害の方のための団体や児童養護施設などのさまざまな団体と交流を持ったり、一緒にプロジェクトを進めたりしています。

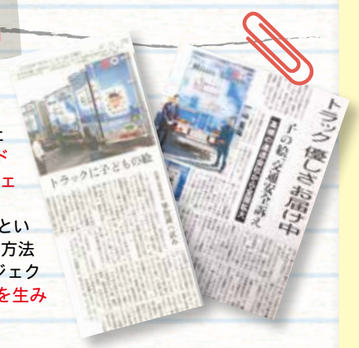
# 知っていますか？ こどもミュージアムプロジェクト

４年前から行われているこどもミュージアムプロジェクト。こどもの絵でラッピングされた可愛らしいトラックは、運転する人、見る人を優しい気持ちにさせ、事故の削減に貢献しています。今回はメディアでも取り上げられたことのあるこのプロジェクトについて、長年中心人物として活躍されている後藤さんにお話を伺いました。

## プロジェクトの概要

トラックをこどもの絵でラッピングすることで、運転手の安全に対する意識を高めるとともに、トラックを見る人にも優しい気持ちを抱いてもらおうというプロジェクトです。４年前から行われている活動で、今年４月にはプロジェクトをさらに広げていくために国際 CSV 事業部が立ち上がりました。プロジェクトは多くの方から賛同をいただいており、現在運送会社などを中心に、幅広く約 41 社の企業様にご参加いただいています。こどもの絵は車体だけでなく、介護の老人ホームや建築現場の防護シートといったさまざまな場所、ものにラッピングされ、安全意識の向上などに貢献しています。また使用される絵は従業員のこどものものだけでなく、小学校や保育園とコラボして行っている企業様も存在します。

## 始まったきっかけ




５年前に発生した事故をきっかけに、社長を中心として事故防止のための取り組みの見直しが行われました。毎日の点呼や研修、IT 機器の導入といったさまざまな取り組みが進められる一方、どれも事故防止の決定打とはなりませんでした。そんな中、あるドライバーがこどものメッセージや絵をバックボードに置いていることを知りました。このことに着想を得た社長のアイデアで、こどもミュージアムプロジェクトは始まりました。

事故を起こしてしまったことで、人を傷つけてしまう可能性を持つトラックが世の中にあっていいのかという疑問が生まれました。その中で社長は、でもやっぱりトラックが好きだ、トラックをなんとか活用する方法を探さなくてはいけない、と考えられていたようです。そうして考え出されたこどもミュージアムプロジェクトは、単に事故を防ぐだけでなく、見る人が優しい気持ちになるトラック、新しい価値を持つトラックを生み出しました。

## プロジェクトの成果

社会貢献という点では、トラックや乗用車などをこどもの絵でラッピングすることによって、運転手にも、車を見る人にも優しさを抱いてもらえるということがあると思います。またそうして生まれた優しい気持ちが、運転の丁寧さに繋がり、事故を減らすと思います。実際社内で起こっている事故の件数が、一昨年、昨年に関しては４割ほど減っています。

ただこのプロジェクトは、社内の中から広げていったというよりも社外から社内に入ってきたというイメージが強いです。社内の人でも、メディアに取り上げられたことでプロジェクトの存在を知った人がいるのではないでしょうか。今回この特集をきっかけに、社内の人がプロジェクトについて興味を持ってくれたら嬉しいですね。

## 今後の目標

４年前に始まったプロジェクトですが、今年４月に国際 CSV 事業部が始まるまでは私が１人で行っていました。だから今までは、こちらから何か営業などの活動をするというよりも、プロジェクトの存在を知って参加を希望されたお客様にお応えするような形でした。現在は国際 CSV 事業部一丸となって、外部の方に対する営業の準備を着々と進めています。お客様ありきの受動的なあり方から一変、自分たちから、能動的に価値を具現化しようという姿勢で頑張っていきたいです。

## みやたのなかま とは??

みやたのなかま は、**宮田運輸の社内報です!**

新しい仲間がどのような人なのか実はよく分からない…

働く拠点が異なると同僚と会話をする機会が少ない…

会社の新サービスや新たな試みについてよく理解できない…

**日常仕事をする中で、このような場面はよくありますよね。**
**そこで、この社内報を通して、会社について理解を深め、社内交流の一役を担えればと思います!**

### オススメ活用例

- その1 掲載された方に積極的に話しかけ、更なる交流のキッカケにしてみましょう!
- その2 活躍する社員の仕事に対するコツや秘訣をチェックして、自分の仕事に活かしてみましょう!
- その3 ご両親、ご家族にも読んでもらい、自身の仕事や仲間を知ってもらい、理解を深めてもらいましょう!